

感動の共有—プライバシーも共有？

越前 功

(国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授)



久しぶりに休暇を取って家族で旅行に出かけた。ホテルはオーシャンビューで眺めは最高。この感動を皆に伝えたい。よし、Twitterでつぶやこう。ホテルの名前も教えちゃえ……。

Web上の旅行記が

「留守」のサインに

携帯端末とネットワークの普及により、このような感動の共有がリアルタイムで実現可能な便利な社会になった。しかし一方で、TwitterやSNSの利用者の位置情報や移動経路などのプライバシー情報が第三者によって不当に把握されることで、利用者が不利益を被ることが社会問題となつている。米国では、休暇を取って旅行に出ていることをTwitterで公開したところ、自宅に置いてあった数千ドルを盗まれた事例がある。また、位置情報の解析を通じて個人情報推測できる可能性も報告されている。Rutgers UniversityのHohは、65人のドライバーの車に装着したGPSを被験者に1週間観測させたところ、85%のドライバーについて、自宅らしき場所を発見できたという。さらに、TwitterやSNSの利用者のプライバシーに対する意識が低いことも、この問題に拍車をかけている。USA TODAYの記事によると、長期休暇で旅行に出た米国人の多くは、旅行中に自宅への泥棒の侵入を恐れて、留守番電話の設定を意図的に解除したり、新聞や郵便物の送付を停止したりしているが、旅行中のSNSの利用に対しては警戒心が薄

く、自宅から何百マイルも離れた旅行先の位置情報や写真をリアルタイムで掲載したり、『1週間に1週間滞在の予定です』などといった情報を安易に投稿してしまう問題があると専門家が指摘している。

安心して「感動を共有」できる技術とは？

先に述べた問題の対策として、プライバシー保護技術が注目されている。プライバシー保護技術の研究では、情報提供者のプライバシー情報を第三者に過度に取得されないようにすることが重要である。社会からの要請もあり、1980年代後半頃から情報セキュリティやデータ工学などの様々な分野の研究者が分野の枠を超えて取り組んでいる。プライバシー保護技術の研究の多くは、情報の内容を「あいまい」にすることや、偽の「情報を加えること」で、第三者によるプライバシー情報の取得を困難にすることに主眼が置かれている。一方で、ほかされた情報の品質がどのように劣化し、受け手にどのような影響を与えるかについての研究は未だ少ないようである。

TwitterやSNSにより不特定多数と感動や話題を共有し、コミュニケーションを図ることが当たり前になった今日、プライバシーを気にするあまり、感動や話題を共有できなくなってしまうのは本末転倒である。情報の品質を維持しながら一定のプライバシー保護を実現する仕組みが求められている。

今月の表紙イラスト：知育玩具で遊ぶ幼児と知能ロボット。知能ロボットも、自分と実世界(社会)と関わりながら、徐々に学び、成長する。このような自立した存在としてのロボットが人と共生する社会はいつ訪れるであろうか。

情報から知を紡ぎだす。

NII

国立情報学研究所 ニュース(NII Today) 第49号 平成22年9月

発行：大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 <http://www.nii.ac.jp/>

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 学術総合センター

編集長：東倉洋一 表紙画：小森 誠 写真撮影：谷口弘幸 制作：株式会社 商業デザインセンター

本誌についてのお問合せ：企画推進本部広報普及チーム TEL:03-4212-2131 FAX:03-4212-2150 e-mail:kouhou@nii.ac.jp